

2017年7月9日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙1章8節～14節

8節神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、9節秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。10節こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。11節キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。12節それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。13節あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。14節この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、私達は贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

《説教》『神様は私達に知恵と理解を与えてくださる』

◆私たちは今月からエフェソの信徒への手紙を始めから読んでおります。それで、先週申したことでありますが、1章の1節、2節は手紙の冒頭の挨拶になります。この挨拶において使徒パウロは、「わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように」と書いています。そしてこの手紙は6章あるのですけれども、この手紙の最後に締めくくりの言葉があります。それは6章23節です。「平和と、信仰を伴う愛が、父である神と、主イエス・キリストから兄弟たちにあるように。恵みが、変わらぬ愛をもってわたしたちの主イエス・キリストを愛する、すべての人と共にあるように」。これが結びです。手紙の冒頭でパウロがエフェソの兄弟姉妹のために祈ったのと同じことを手紙の終わりでも祈っているわけです。「恵みと平和があなたがたにありますように」と書き出し、結びもまたそうなのです。ということは、始めの挨拶の言葉と終わりの挨拶の言葉の間にある本文でパウロがエフェソの信徒へ書こうとしている事は「父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和」とは、どうということなのかということ、パウロ自身が解説しているのだと言ってもよいと思います。ず

一と書いて、また最後に「あなたがたに平和と恵みがありますように」と祈るのです。

◆エフェソは当時のアジア州(現在のトルコで)首都で、当時の世界の3大都市の一つに数えられるほどの大都会でした。そこには「アルテミスの神殿」というものがあって、これは世界の7不思議の一つに数えられるほどのものだという事です。そういうエフェソのキリスト者に、パウロはこの手紙を書き送っているわけです。先週も申しましたように、1章1節～14節までに「キリストにおいて」という表現に類する言葉をパウロは13回も使っています。つまりパウロはキリストに捉えられて神様の御心が分かったのです。繰り返し申しますように冒頭の挨拶はパウロの定型の挨拶ですが、このエフェソ書の前にガラテヤ書の冒頭の挨拶でこうっております。ガラテヤ書の1章の4節を御覧ください。こうあります。「キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです」と。

◆ルターの宗教改革の時、彼を励まし、支えたのがガラテヤ書でした。「キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。」キリストという方はわたしたちの神であり父であるお方の御心に従ってこの悪の世からわたしたちを救い出そうとして、解放しようとして、本当に自由にしようとして、平和のうちに生かそうとして。ご自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。こういうふうにパウロはガラテヤの信徒への手紙の冒頭では言っています。その「キリストにおいて」、今日のこのエフェソ書の1章1節～14節で、13回も「キリストにおいて」と繰り返し、「キリストは私達の救いのために私達をありとあらゆる捉われから解放し、自由にするためにご自身を献げてくださったのです」と語ります。

◆このキリストに捕えられる時、そのキリストは正に霊としてわたしたちに臨み、私達の内に入って来てくださる時、わたしたちは本当に解放されるのですね。ありとあらゆる捕らわれ、不自由から解放されるのです。実は、一昨日の事でしたが、思いがけない方々の訪問を受けました。全く知らない方々だったのですけれども、訪ねて来られました、直前に電話がありました。そして、その御夫人は、「私は、今、重病なのです」と言われました。その声ははっきりしているように私には聞こえました。「教会のホームページ見せていただきましたら、金曜日は、相談に応じて頂けるとありましたので、お訪ねさせていただきたいのですが」ということで、午後5時過ぎに旦那さんと一緒に来られました。教会の近くの病院にこの火曜日入院し、水曜日に手術を受けられるということでした。先程も申しましたが、電話のお声は、具体的な事

情をお聞きしなければ、本当にお元気そうな声でした。お会いしても病気に負けているというふうには見えませんでした。初めての方でしたので、何故、私達の教会を訪ねてこられたのかをお聞きしますと、旦那さんが、定年まで、ずっとと教会の近くの会社にお勤めの方でした。ご本人は中・高・大と、カトリックの学校に行かれ、お嬢さんたちはプロテスタントの学校をでておられ、そのようなことで聖書に触れ、キリスト教に触れておられたのです。そして、思いがけずガンに犯され、手術を控えて、教会を訪ねて来られたのです。「キリストをさえ私達の救いの為に与えて下さった神様は、私達の事を全て知り抜いた上で、最も良い事を為さって下さいますから、全てを神様の御手に委ねられて、手術に臨んでください」とお勧めし、この会堂で3人でお祈りをしたのです。そういう方もおられます。万一のことも考えておられることが、言葉の端々に伺えましたが、私は、本当に神様が癒して下さることを心から祈りました。そんなことで、わたしたちの人生、本当に、いつどんなことで生きるか死ぬか。そういう時に、生きるにせよ死ぬにせよ、わたしたちは本当に全存在を委ねることができるお方は誰なのかということですね。キリストは、わたしたちを救うためにご自身を捧げて下さった。そのイエ様がその方に対しても最善の事を必ず為さってくださいます。

◆今日の8節にこうあります。「神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。」ここで三つの事が言われています。ここの表現は所謂、ヘブライの文書表現法、「併行法」的表現です。「神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ」と「すべての知恵と理解とを与え」と「秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました」は、同じ事柄の別表現です。同じことを表現を変えて、時には、反対のことを言うことによって言わんとすることを明瞭にするという表現法が並行法です。8節はそういう表現法ですね「神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ」。つまり、「神様は、いつ、いかなる時にも、わたしたちを恵みで覆ってくださる」ことは、動かぬ事実なのです。ですけれども、その事実を知る「知恵と理解とを与えて」くださる事によって、そのことによって、その恵みの事実の中にこの自分があるのだということが知ることができるわけです。そして「秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいます」と、同じ事柄を言い換えているのです。

◆そして10節には、「こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです」とあります。まさに天と地の万物、そしてこの世界にいる

すべての人々がキリストにおいて一つにされるのです。キリストのもとにわたしたちはひとつになるというか、キリストに身を委ねる時に、そこに平和が成るのだと思います。エフェソというこの大都会は、ユダヤ教とは関係ありません。イスラエルと関係ありません。そういうエフェソの人たちに対しても「キリストにおいてだけ、われわれは平和に与ることができるのです」とパウロは言うわけです。

◆11 節にこうあります。「キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。」これは、先週読んだ5節を見ていただきますとこうあります。「イエス・キリストによって神の子にしようとして前もってくださった御心のままに御定めになったのです」と。父なる神様の天地万物を造られるその前からの御心というのは、「わたしたちを神の子にしようとして、イエス・キリストによってみ心のままに前もって御定めになったのです」とあります。つまり「私達はイエス・キリストと一体とされることによって、神の子として、神のお持ちの全ての善きものの相続者なのです」とパウロは言っています。13 節みますと、「あなたがたもまたキリストにおいて真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。」聖霊で証印を押されて、キリストのものとなって、それで神の善きものの全てをこの相続をする者となります。14 節「この聖霊はわたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうしてわたしたちは贖われて神のものとなり神の栄光をたたえることになるのです。」

◆私達の礼拝は、いつも「祝祷」をもって終わります。「主イエス・キリストの恵みと父なる神様の愛と聖霊の交わりがあなた方と共に常にありますように」という祝祷です。「主イエス・キリストの恵み」と「父なる神様の愛」と「聖霊の交わり」は同じ出来事です。わたしたちはその交わりの中に昨日も今日も死の時も死の後も生きる者とされているというのが、三位一体なる神様を信じる私たちの信仰です。カール・バルトはこう言っております。「ここに一人の信仰者がいるという事実は、天地の無からの創造という奇跡よりも、またイエス・キリストの処女マリアからの誕生という奇跡よりも、決して小さい奇跡ではありません」と。私達一人一人が、「奇跡の人」なのです。神様の栄光を讃えて生きてまいりましょう。

◆お祈りいたします。

恵み深い主イエス・キリストの父なる神様。御子イエス様を賜り、御霊として常に私達と共にいまし、全てを善として下さる神様。あなたの御恩寵を感謝致します。御栄光が永久に三位一体なるあなたの上にありますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。